

災害歯科「受援対応座談会」

～ 熊本地震における南阿蘇地区での歯科支援対応を振り返る ～

2023年4月16日（日）10:00-13:10 オンライン

（主催：日本災害時公衆衛生歯科研究会／後援：熊本県歯科医師会）

事後アンケートへの感想

【歯科医師】

丸野 克之 歯科医師 小林えびの西諸歯科医師会

災害対策や、行政 他機関との協力体制についてさらなる強化が必要と感じている。

和田 孝介 歯科医師 大分県歯科医師会

部分的な参加でしたが、受援での心構えを考えることができました。ありがとうございました。

米須 敦子 歯科医師 沖縄県歯科医師会

振り返りの大切さを感じました。

キーパーソンの大切さと判断力、決断力そして俯瞰できる事に大切さを感じました。

現地主体が第一だと今一度強く感じました。

ありがとうございました。

上田 雅康 歯科医師 島根県歯科医師会

当地島根県や中国四国地区に置き換えて、想像・妄想しながら拝聴いたしました。とても良い機会をいただきありがとうございました。

利光史規 歯科医師 大分県歯科医師会

まだ被災地に赴いたことがないので、少しでも状況がわかるだけでも良かったと思います

平田 晃士 歯科医師 医療法人平田歯科医院

裏話も含め当時の現場の状況をご教授いただきありがとうございました

匿名 歯科医師 歯科診療所

災害における救援と受援の関係について改めて考えさせられました。

匿名 歯科医師 歯科診療所

参加させて頂きありがとうございました

厚生労働省の推奨する「多職種連携」が必要であることを再認識致しました。

匿名 歯科医師 歯科診療所

熊本地震当時の対応がいろいろ聞いて参考になりました。

匿名 歯科医師 歯科診療所

研修会ではお伺いする事が出来ない先生方の当時、当初の心理状態を知る事が出来ました。
貴重なお話をありがとうございました。

匿名 歯科医師 医学部歯科口腔外科

田上先生が支援チームを受け入れるときの感想として「不安だった」というコメントがありました
が、支援に入る際に、支援チームは、地元の先生方と、どのような支援を考えているのか、双方
の意見のすり合わせが必要だと感じました。

匿名 歯科医師 医学部歯科口腔外科

災害支援、受援を通じて、密なネットワーク形成が出来ている点が大変素晴らしいと感じてい
ます。そこに当時の支援をご一緒できなかった人間も、熱い思いだけでなく、次の災害に備える
決心を頂ける会でした。ありがとうございました。

匿名 歯科医師 歯学部歯学科

座談会形式よりもシンポジウム形式の方が良かった。
災害時の支援のあり方がある程度理解できた。

匿名 歯科医師 都道府県

実際の発災後の連携にいたるまでの先生方の動きや考えた内容、実施した内容がとてもよく
分かりました。

辛い体験をお話しいただいた被災された先生方が体験をシェアしていただくことに感謝です。

【歯科衛生士】

(熊本県内)

坂本由美 歯科衛生士 熊本県歯科衛生士会

支援と受援は相互関係であるが、バランスが崩れることもあるように感じる。その意味で今回の研修で振り返りができたことは良かったです。

匿名 歯科衛生士 歯科衛生士会

田上先生がいらっしゃった南阿蘇は、熊本地震後の災害支援及び受援は考えられ相談されながら大変な状況の中流れができておられ今後の災害支援活動の一基盤として、どこかで災害が起きた場合の指標となっているのかと思います。一か月をめぐりに1班～4班の災害支援部隊が活動し起承転結とおっしゃっていたように繋いでいくことで少しずつ前へ進むことができるのではと思います。地域性がありそれぞれうまくいかないことも出てくることもあると思います、全く同じことはできないでしょう支援活動ができる方向性を見極めながら少し変更したり、端折ったりすることも必要になると思いますそして地元へ帰す。今日のような研修がまたあればよいと思います。

その時(災害時)には言葉として口にできないことも時間がたち少し話してみようかなと思われの方が、ポツリポツリと話をされその話を聞くことができれば、いつも同じ災害が来ることはないでまた違った気づきがあるのではないかと思います。そして災害支援活動にその気づきが生かせるようになればと思います。今日は気持ちがザワザワしていてちょっと困っています。やはり平時が大事だと思います、災害対策の研修は心がけて参加するようにしています。

匿名 歯科衛生士 歯科衛生士会

「受援とは？」について、熊本地震で益城町での活動後、多職種の研修会にいろいろ参加しましたが、支援についてが殆どでした。諸事情の中での活動、研修会では視聴できない内容を伺える事ができ、学ぶ事ができました。ありがとうございました。災害だけでなく、平時からの繋がり、他職種との連携の必要性を改めて感じました。

匿名 歯科衛生士 歯科衛生士会

熊本地震の南阿蘇地区における歯科支援の裏側の話を聞いた感じで、当時の様子がよくわかりました。私自身は、熊本地震の際に歯科支援に参加できず、その後に発生した令和2年7月豪雨災害において歯科支援に入りました。歯科衛生士会の災害研修会を受けていましたが、実際に歯科支援の経験がなく、コロナ感染症対策を取りながらの歯科支援をどう動けばよいのかわかりませんでした。

今回の南阿蘇地区の歯科支援を理解することで、令和2年7月豪雨災害歯科支援において、熊本地震の経験が生かされた指示が、熊本県歯科衛生士会から歯科支援に入る各支部に伝えられていたことに、今更ですが気付くことができました。

楠田美佳 歯科衛生士 熊本県人吉保健所

南阿蘇村での詳細な活動、皆様の思いが伝わってきました。ありがとうございました。

経験していない方々に関係者の思いに触れていただくために、これからもこういった機会を作っていたらいいなと思いました。

また、南阿蘇村でのモデル的な取組みがあった一方で、できていなかった地域もあったことを伝えていくこと、必要などころに必要な支援を行っていくには何をすべきなのかということ等を共有していくことも必要だと思いますので、そういった機会もあるといいなと思います。

熊本地震から7年、少しずつつかもかもしれませんが、歯科を取り巻く環境は確実に変わってきていると思います。忘れることなく、歩みを止めずに、皆で取組みを進めていくことができればと思います。

(平成28年熊本地震 外部歯科支援出務者)

有松ひとみ 歯科衛生士 大分県歯科衛生士会

支援した側からは計り知れない受援側の状況やお気持ちを伺えて貴重な時間となりました。

今回研修会をどう活かすかがポイントになると感じましたし、それは災害対応を自分事として考え、周りに波及していく平時からの行えることである気がしています。

八木浩子 歯科衛生士 佐賀県歯科衛生士会

今日は熊本地震での受援される側の本音が聞けてとても勉強になりました。受援者側・支援者側それぞれのご苦労がとても伝わってきました。また両者の連携の重要性も感じました。当時家庭の事情で私は参加できませんでしたが佐賀県の西部地域の水害支援に歯科医師会からの依頼で参加したとき、支援のタイミングや難しさを感じました。衛生士会としては、もし災害が発生したときは歯科医師会と連携しすぐに動ける体制づくりが必要だと思っています。これからも年に一度の災害研修や年に2回の会員の安否確認のシミュレーションを続けていきたいと思っています。今日はありがとうございました。

原徳美 歯科衛生士 特別養護老人ホーム BASARA

受援に対する考え方について聞くことができ良かったです。

匿名 歯科衛生士 歯科衛生士会

今回の受援対応座談会で当時の活動や想いを振り返る機会となりました。

同じ被災地を支援、受援の立場からどのように考えて活動していたかお教えいただきありがとうございました。最後の熊本県歯科衛生士会坂本さんのお話から、被災県衛の状態やその時の想い、周りの歯科衛生士のことを伺い、同じ歯科衛生士であり、会の役員の方の立場からこれから支援をすることになったとき今回のお話をしっかりと覚えて活動していかなければと感じました。

被災された皆様にとってつらいことを思い出すこととなったかと思いますが、貴重なお話ありがとうございました。

(その他)

中村恵奈 歯科衛生士 愛知県歯科衛生士会、豊川市保健センター

今回、座談会という形で「受援」「支援」様々な立場で携わられた皆様の話を、深掘りし繋げていくスタイルがとても有り難かったです。素敵な企画をありがとうございました。私自身、市町村行政と県衛の両方の立場で新たな発見と迷う部分が方向として間違っていないことの確認ができました。市町村行政としては、地域医療構想・生活支援活動の意味を理解し、災害時でも ICF を思い浮かべられる田上先生のような歯科関係者が地域に存在するよう、平時の関係団体等との連携内容を見直したい。また県衛としては、人材育成をする際、役に立ちたいと思う人の熱が暴走して混乱させないための視点をもう少し入れ込む必要性を感じた。あと「0.5次・1.5次医療」「ソフトランディング」「スーパー歯科衛生士はいらない」というキーワードがイメージがしやすかったです。

匿名 歯科衛生士 歯科衛生士会

実際に被災者側の状況など貴重なお話を聞くことができよかったです。

石黒幸枝 歯科衛生士 米原市地域包括医療福祉センターふくしあ

1月に太田先生のご講演を拝聴し、井下先生語録とともに災害歯科保健を改めて考えることとなりました。今日はさらに受援について(今まであまり考えたことがありませんでした)田上先生のお言葉は、どこにでも当てはまることだけど実際に難しいことと思いました。熊本県、福岡県、大分県、宮崎県の皆さんのお声も聞けてよかったです。南阿蘇と益城に支援に行きましたが団体の一員としてではなかったのも、今後の歯科衛生士会での研修会の進め方に参考にさせていただきます。ありがとうございました。

匿名 歯科衛生士 病院歯科

あれから7年。決して色褪せることなく、いまでも思い出すのは辛い、あの頃のことをお話いただいた皆さまに、まず感謝申し上げます。ありがとうございました。

今回、受援側のことを時系列で知ることができたので、流れや気持ちをより良く知ることができたと思います。支援とは、その地域の資源を知ったうえで、撤退を見据えて行わなければ受援側に負担になってしまうのだと、改めて感じました。支援時は、そのとき、その場に、一時的に「お邪魔します。」という気持ちで伺うのが良いのかな？と考えました。

ICFに基づいた支援については、以前、あるDMATの先生がICFモデルを使って支援ってこういうもの。という講義されていて、受講時になるほど！と、すごく理解しやすかったことを思い出しました。歯科では、なかなか馴染みが薄い言葉なのではないかと思いますが、とても大切なことですね。失礼ながら、歯科の先生からICFという言葉がでたのだと知って、驚きました。

そんな田上先生が現地コーディネーターであったことが、南阿蘇での活動の基盤となっていて、首根っこ捕まえて引きずり戻した太田先生、グッジョブ！でした

「座談会」であるからか、7年経過しているからか、いまだから言えること。もあり、大変学びの多い研修会でした。ありがとうございました。

(2023年4月25日)